



# 森のなかま

2013年10月号  
NO.66 (継続211号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明  
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

平成25年度『第2回 ブラッシュアップ研修会 里山整備』が行なわれました。

2013年9月1日(日) 場所:足柄上郡山北町(共和地区)

講師: (有)丹沢 井伊秀博 様、共和地区代表 杉本 一 様  
< 理事 小笠原 多加子 10期 >

大野山中腹の山北町共和財産区の山林にインストラクター50余名が参加して第2回ブラッシュアップ研修が開催された。

最初に共和地区代表の杉本氏から「なぜ、この地の整備を行うか」の説明があった。今、この地では



開催に当たって  
(公財)かながわトラストみどり財団の古館氏  
よりの説明



杉本 氏

枯枝から虫が入る穿孔性害虫被害がでており、材にならない木が多いようだ。

スギ、ヒノキを育てるには時間がかかるのでできるだけ短時間で収入を得られるものと考えてクヌギを育てシイタケの原木産地化を目指すことになった。地区住民が自分達の山という意識を持って活動に参加しているとのことで山作業の初心者もいるとのことであった。

その後、植林をしやすくする前作業である地拵えについて(株)丹沢の井伊氏指導のもと各グループに分かれ作業を行った。山主さんの考えにそって作業を進めていく。  
※ひこばえ阻害防止のため巻き落としの杭は立木を使用しないことを学んだ。



井伊 氏

昼食後、広葉樹の伐倒について井伊氏のデモンストレーションを見学しながら研修を行った。伐倒方向の決め方や注意事項①受け口は大きく。突っ込み切り②追い口を切っている時裂けやすいので様子をよくみる。テープ等の使用③重心側の枝はできるだけ残す。等を実習した。



広葉樹でも受け口、つる、追い口の見事なバランス

枝にロープをかける時のスローラインの使い方・ひっぱりだこ・チルホールなどの用具を使った作業を見ることができたのはとてもよかった。ふだん手ノコ作業中心の人達にとっては貴重な体験だったと思う。今後もこのような技法や用具についての研修ができればいいと思った。数年後の山の様子も楽しみである。



ロープ掛け

※ひこばえ(蘗)  
(孫生(ひこばえ)の意)  
伐った草木の根株からでた芽。  
またばえ。余蘗(よげつ)。



最後は道具の手入れ  
鎌砥ぎ

(写真: 広報部 赤崎)

自然観察部会 『 自然観察研修会 』

場所:箱根湿生花園 日時:9月7日(土) 10:30~15:10

講師 箱根湿生花園学芸員 松江 大輔 様

＜ 自然観察部会 赤崎さほり 12期 ＞

まだ残暑の残る中、箱根湿生花園にて自然観察の研修会を行いました。この日は雨天も心配されたのですが、開催中は最後まで時々日が差し込み、そよぐ風が大変涼やかで快適な一日となりました。

研修会の講師は学芸員の松江大輔氏にお願い致しまして、午前中は座学にて日本の湿原一般論から箱根湿生花園の成り立ちを講義いただき、午後は実際に園内で植物を手にとって観察を行いました。

箱根湿生花園のある、仙石原湿原は海拔 650 メートルの標高にあり、約 250 種の植物が確認されています。(内、湿原性のものは 70 種)神奈川県で唯一の湿原として、国から昭和9年に天然記念物に指定されていて、湿原の種類としては低層湿原に属します。仙石原湿原にはもともと湿原性植物のノハナショウブがまるで絨毯の様に咲いていたそうですが、今はわずかに残るばかりとなっています。現在は職員やボランティアの方々の協力等により、少しずつ個体数を回復しているそうです。



室内での講義



ノハナショウブ (映写より)

当日、園内は秋の植物を中心に、珍しい海外の植物も観察できました。ワレモコウ、ハコネギク、サワギキョウ、キレンゲショウマ、ヒメシロネ、ウラハグサ、ジャコウソウ、オニブキ、レイジンソウ、アケボノソウ、ムラサキミカキグサ、サンショウバラ等、40種類程を松江氏は実際に歩きながら実物を手に取り、それぞれ解説をしてくださいました。多少、難解とのご意見もいただきましたが、確かな学術的見解をもとに身につけた知識は今後の活動において参加される一般の方への解説にも自信がつくと思います。勉学の秋に相応しい、充実した内容の研修会でした。

参加人数 13名

菊池①、友谷①、松田⑦、松本⑧、久保⑧、女川⑨、小林⑩、鳥飼⑪、松本⑪、山口⑪、松永⑪、小池⑫、赤崎⑫



湿生花園のオミナエシとワレモコウと  
バックは仙石原のススキ原

(写真: 広報部 赤崎、松本)



オミナエシの花蜜を吸うハチ



キレンゲショウマ



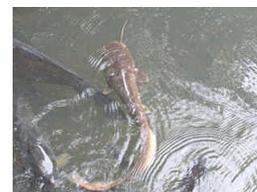
サワギキョウ



ワレモコウ



レンリソウ



番外編  
池にコイといいたナマズ

## 森林文化部会『柿渋作品作り体験教室』

場所：ポーノ相模大野ユニコムプラザさがみはら 日時：9月7日（土）9:00～13:30

## &lt; 森林文化部会部会長 井出恒夫 1期 &gt;

過去、森林文化部会では、紙すき、草木染め、炭焼きなど、先人の知恵を学ぶ体験教室を実施してきました(右表)。

昨年度は柿渋液作り、今年6月に柿渋のための作品作りと段階を追って開催してきましたが、今回はいよいよ柿渋の塗布、染色等、最終作品作りを行いました。

H24年：柿渋(柿しぼり)、燻製  
H23年：紙すき、木工製品(ベンチ)  
H22年：紙すき、炭焼き、竹細工  
H21年：草木染め、草もち、竹細工  
H20年：竹細工、筍料理  
H19年：草鞋、カラムシ繊維、蒟蒻づくり  
H18年：和紙のうちわ、山芋・アケビ料理  
H17年：紙すき、葛きり

## 1. 柿渋塗布(一閑張り、竹容器)

昨年作った柿渋液はまだ熟成不足(約3年必要)で、市販の柿渋液を購入して塗布を行いました。刷毛に柿渋液をつけてユックリ往復させます。一度乾かせて計3回ほど塗りますが、一週間ほど乾かす必要があるため、後は柿渋液を持ち帰り家で塗布することにしました。



左：柿渋塗布作業

上：ステンシル型紙作り

## 2. ステンシル染め

ステンシルとは、孔版印刷の一種で、型紙を切り抜き、その穴の部分から染料を布などにつける技法のことです。今回は染料として柿渋を使用しました。図案作成→型紙の切抜き→柿渋を生地にすり込む、の順で作業を行い、趣のある布コースターや布バッグができました。



完成した作品の前で

## 3. 季節のお菓子作り

上宮田さんに下ごしらえをして頂き、「サツマイモの和菓子(イモ恋風)」を作成しました。そして、武者さんお手前のお茶でお菓子をいただきました。



【参加者】井出①、米本②、落合③、大道⑥、生田⑥、武者⑦、白畑⑦、松村(俊)⑧、内野⑨、高橋⑨、中元⑩、小笠原⑩、上宮田⑪、大塚⑪、渡辺(敏)⑫

< 森林に関わる伝承文化や自然との共生の知恵を学ぶことにより、森林インストラクターとしての幅が広がると思います。今後も色々な体験講座を企画したいと思いますので是非ご参加ください。 >

(写真：井出氏 1期)



## 本の紹介

## 『森林飽和』

4月号 5ページで 7期の渡辺 公氏が紹介しています。振り返ってご覧ください。

本年度の森林文化講演会は、平成26年2月16日(日)に『森林飽和』の作者太田猛彦・東大名誉教授に講演していただきます。長年の実績に基づく有意義なお話を聞くことができると思いますので、是非お越しください。

## 私の認識

## 野鳥その114

高橋 恒通

今月は冬鳥なれど北海道では繁殖が確認された事もあり、また本州沿岸で少数の越冬も確認されているクロガモ(漢和名:黒鴨、英名:Common Scoter、体長L=48 cm)についてご案内致します。

成鳥♂の体色は名前の通り、嘴も含めて全身黒色ですが、上嘴の付け根の部分が瘤状に盛り上がり、その部分のみが黄色なのです。日本で観察できるカモの中でこれ程に単純な体色で覚え易いカモは外に見当りません。これに対し成鳥♀は頬の下が濁白色以外は全身が暗褐色、そして嘴は黒色です。

クロガモの棲息環境は、沖合、内湾や港などで典型的な海ガモだと認識しております。波のある沖合でも群れで行動し、波を利用して一羽が潜水すると、その周辺に居る仲間が次々と潜水し採食行動をするそうです。淡水ガモの多くが主に夜間に採食行動をするのとは逆に、白昼堂々と“連れション”ならぬ“連れ潜水”して貝類など底生動物を食すると言われて



私がビギナーの頃、城ヶ島か真鶴半島だったかの探鳥会で、沖合に点々と黒色の個体が波の間に見え隠れするのをリーダーが指差して「あそこに黒い点々の小さな群れが見えますかア…あれがクロガモですヨ、嘴の黄色が双眼鏡でも見えるでしょう！」と促してくれて、それで確認しました。弱いけれど冷たい風の吹く曇天の日でしたし、連れ潜水の場面など確認していません。私にとってクロガモとの対面は、その時が最初で最後です。判りやすいカモなので機会があれば再び逢いたいです。

次の海ガモは、冬鳥のビロードキンクロ(漢和名:天鵞絨金黒、英名:Velvet Scoter、体長L=55 cm)のご案内を致します。

この大形海ガモ成鳥♂の体色は、赤色の上嘴の基部に黒色の瘤があり、体全身が黒一色、但し、目の下側に三ヶ月形の白色斑があり、そして白色の次列風切羽です。これがビロードキンクロ成鳥♂を同

定する最大の手懸かりだと認識しております。

同じく成鳥♀のそれは、全身が淡暗褐色で眼先と耳羽と次列風切羽が濁白色です。越冬時の棲息環境は主に沖合ですが、内湾にも波の荒い海岸にも小群でいるそうです。習性は浅い海に潜水し貝類や甲殻類を採食します。これはクロガモに似ております。

また敵の接近を知ると、飛び立たずに潜って難を逃れる行動をとるとの事ですので、優れた潜水能力を具備している海ガモと言えます。ビロードキンクロの世界地図上の棲息域は、北米大陸、ユーラシア大陸の亜寒帯から寒帯の広い領域で繁殖します。

そして越冬は、北米大陸の中緯度東岸西岸、ユーラシア大陸では、日本、地中海、イベリア半島など中緯度温帯域です。

私にとって興味深いのは、我国で観察できるビロードキンクロが以上の如く広域で繁殖しているにも拘らず、クロガモの群れの中に混じっている希少な存在だと言う点です。若し、ご愛読の方の中でクロガモを観察する機会がありましたら、嘴の赤いビロードキンクロの存在をも注視してみてください。私も機会があれば黄色の瘤のある嘴の群れが居たら赤色嘴の大形の個体を探してみようと思っております。

## (参考資料)

◎日本の野鳥, 山溪カラー名鑑, 編・高野伸二, 解説・浜口哲一他 3名, 山と溪谷社

◎野鳥, 山溪フィールドブックス④, 写真/叶内拓哉 解説/浜口哲一, 山と溪谷社

◎日本の野鳥, 山溪ハンディ図鑑 7, 写真・解説/叶内拓哉, 分布図・解説協力/安部直哉, 解説(鳴声)/上田秀雄, 山と溪谷社

◎日本の野鳥, フィールドガイド 1, 竹下信雄著, 小学館

◎ (イラスト) 広報 大塚 晴子

(クロガモとビロードキンクロは黒色が主体で、なおかつ容姿も似ています。従って判別のために原色日本鳥類図鑑の昭和51年発行のイラストも参考に掲載しました)



## 活動短信



今回の掲載は  
7/27～8/10です。  
投稿頂いた中には、紙面  
の都合上、次号以降の掲  
載になるものもあります。  
予めご了承下さい。

## ◆ 県民参加の森林づくり (下刈り)

- 日 7月27日(土) 8:00～13:30、曇り時々晴れ  
場 秦野市堀山下(全国植樹祭植栽地)  
参 募集参加者80名(申込者97名)  
財 内海様、鳥海様 看 大西様  
スタッフ 秦野市森林づくり課 課長他2名  
イ L高崎④、井出①、渡辺③、鈴木③、柏倉④  
堀江④、大道⑥、愛木⑦、草野⑧、鈴木⑧、  
園田⑨

雨にたたられながらも、これまで最多数のインストラクターが参加・協力し、成功裏のうちに終えられた全国植樹祭。その植栽地で、再び、県民参加の森林づくり活動・運動に協力できることをうれしく思いつつ、下刈り作業に参加した。そこで、「森は海の恋人」の視点から、森林づくり活動等に取り組んでおられる平塚市漁業協同組合の方々とともに活動運動ができたことは、新たな喜びであった。単なる活動のみでなく、運動と捉えた場合、多様な参加者が多様な取り組みで連携・協力していくことの必要性を感じる私にとって、多くの方に知ってもらいたい一日であった。暑い中、ハチの被害7件、ヤマビル被害多数と、大変な一日であったが、大多数の参加者が充実感を味わえた一日だったのではないだろうか。ミニ講座も含めた活動時の皆さんの晴れ晴れとした顔が思い浮かぶこの頃である。

(記 高崎 好計 4期)

## ◆ (社)神奈川県法人会連合会 (下刈り)

## 地域社会貢献活動

- 日 7月27日(土)、曇り時々晴れ  
場 秦野市 寺山 ヤビツ峠「法人会の森」  
参 約350名  
県 後藤様  
イ L森本⑤、友谷①、国分③、坂齋⑦、有坂⑧、  
黒沢⑧、小沢⑨、水口⑨、村井⑨、宮下⑩、  
大塚⑩、中村⑩、福島⑩、松本⑩、吉田⑩、  
東一⑫、澤村⑫、西出⑫

恒例の大型ネットワーク活動。現地は、幸いにして曇

天で下刈り日和。大勢の方々への周知の観点から、下刈りの注意事項について、当日配布のプログラムへ事前記載する等の安全対策を講じさせていただいた。作業そのものは、大きな事故もなく終了。カマを使う下刈り体験としては、ご満足いただけたものと思う。ただ、植栽木が育っていなかったり、本数も少なめの感じがしたので、今後、補植などの改善策をご提案していきたい。

(記 森本 正信 5期)

## ◆ 富士通グループ・神奈川

## かながわ水源の森づくり

- 日 8月3日(土) 9:30～14:30  
場 塚原ボランティアフィールド「はじまりの森」  
+やどりき水源林  
参 26名(応募者26名)  
スタッフ 高田部長 瀬戸様 他  
財 豊丸様  
イ L高崎④、坂齋⑦、山崎⑦

若くて初参加の方々の熱心な下刈り作業、草花や昆虫に寄せる興味・関心、終了後のさわやかな表情等々を拝見するにつけ、久々に新たな喜びを感じたインストラクター活動であった。

「・・万全な指導により、誰もがケガすることもなく、心配しておりました熱中症にもならず、参加者が安全に活動できましたことを感謝いたしております。」「やどりき水源林の冷たい川で、草刈りで汗をかいた暑さを癒し、水生生物を探したりと、童心にかえって楽しかった。」「川が予想以上にきれいだった。」「今度は子供も連れて来たい。」等々、担当者や参加者の声を寄せていただいたことも、うれしいことだった。いろいろな事情から、参加者数減・担当インストラクター減員調整・活動フィールド変更・活動プログラム変更調整等々あり、課題の残った活動でもあったが、逆に、上記のような表情・声に接し、まだまだインストラクター活動を続けたい、と心から思った一日であった。

(記 高崎 好計 4期)

## ニュースレター「しずくちゃん便り」

ホームページは下記URLで見ることができます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.html>

かながわの水環境の  
保全・再生をめざして

けがらのない神奈川の川を守るために



## ◆ コカコーラ・イーストジャパン株式会社

## 森に学ぶ！！

## (水源の森保護体験作業 下刈り・丸太切り)

日 8月4日(日) 10:00～16:00、曇り

場 宮ヶ瀬湖畔園地

参 56名(大人29名 子供27名(3歳～12歳))

スタッフ 会社(CCEJスタッフ) 16名

イ L鈴木⑤、相馬⑤、小野⑦、小沢⑨、松本⑪

毎日の猛暑だが、今日は曇り。今回8回目を迎え、イベント内容を変更、今回は募集100名枠、申込み64名、中57名参加。イベント10時開始、コカコーラ流の準備体操は傑作だ。

参加者を3Grに分け、森林体験作業は、午前1Gr、午後2Grとなる。持ち時間は一時間だ。会場～森入口移動、鎌取扱い／安全作業指導実施～鎌／ヘルメット返却～丸太切り～森の入口戻り～会場迄移動、これで1時間は、かなりきつい。各班5～6名に分かれ、作業開始、参加者の大部分は下刈り作業は初めて、絶対に怪我をさせない鎌の取り扱いと安全作業の徹底、そして、体験成果の喜びを見て分かる様に行う。現場は、背丈を越すカヤの繁る広い現場。緊張感を持って、怪我もなく、大人子供も下刈り体験を終了。

作業後の丸太切りは、大変好評だった。各リーダーは限定時間内で、安全・作業指導大変だった。例年、多くのヒルで、多くの方が被害、今回、小人数被害に収まった。時間に追われた体験作業であった。

追伸:参加者のアンケート ⇒ 森林体験有意義の好評多く有り。

(記 鈴木 松弘 5期)

## ◆ 県民参加の森林づくり (入門コース) (下刈り)

日 8月4日(日) 8:45～16:20、晴時々曇り

場 相模原市緑区青野原(市有林)

参 一般応募者 32名(子供を含む)

財 鳥海様、初山様 看 青木様

スタッフ みどりの協会2名、森林組合1名

講話 佐藤好延様(有限会社サトウ草木)

イ L柴⑪、高橋③、渡辺③、高崎④、滝澤⑤、伊藤⑦、坂齋⑦、武者⑦、西出⑫

8:45、バス3台で本厚木駅を出発し、1時間10分後、現地に到着した。開会の挨拶、リーダーの注意事項の伝達、準備体操の後、4班に分かれ、各班2名のインストラ

クターが付いて前方の斜面を登った。現場は、2年前にケヤキ、無花粉スギ、コナラ、ヤマザクラ、イロハモミジ等が植樹された北斜面であるが、随所に2m程のタケニグサが茂り、やりがいのある作業となった。順調に1m程に育った木が多かったが、中には生い茂る草の下で枯れそうな木もあり、この下刈で元気を取り戻してくれることを祈りながら、1時間30分の作業を無事に終えた。

昼食後、約1時間、地元林業経営者の「森林と水源」に関する講話があり、その後、県下唯一の木造校舎を有する青根小学校(現在、全校児童9名)で校長先生の説明を聞いて校舎を見学した。その後、裏手にある学校林、集落が見下ろせる高台(戦時中の監視哨跡地)を見学し、15時、現地を出発して、16時20分、本厚木駅で解散した。

(記 西出 健一 12期)



## ◆ 小田原市森林組合

## 森林レクリエーションと飯盒炊爨

日 8月6日(火) 9:00～15:00、曇り

場 小田原市いこいの森

参 一般応募者 14名(大人5名、子供9名)

スタッフ 小田原市森林組合 村山様、管理人2名

イ L小沢⑨、齋藤⑥、酒井⑩、西出⑫

7月25日に引続いて、2回目が開催された。9時過ぎに開会して、主催者の挨拶、リーダーの注意事項の伝達等があり、その後、1時間30分程、ふれあいの丘、クヌギの広場などを回って、森林を散策した。自然観察をしたり、クワガタなどを取ったり、遊具(トランポリン、ターザン・ロープ等)で遊んだり、小学生から2歳の子まで遊びは元気一杯である。その後、炊事場に戻って、11時から、昼食の準備を全員で行った。飯盒に持参したお米を入れて磨ぎ、水を張って、火に掛けた。「始めちよろちよろ中ぱっぱ、赤子なくとも蓋取るな」を思い出しながら、ご飯も無事に出来上がり、管理人さんの作ったカレーを掛けて頂いた。森の中で食べるご飯が美味しいのか、遊んでお腹が空いたのか、お代わりをする子が何人もいて、みんな良く食べた。

午後は、10分程歩いた森林組合の作業場で、スギの間伐材を使ってコースターづくりをした。ここでもみんな、懸命にノコを引き、2、3個作る子もいた。その後、ふれあいの丘付近でズダケの葉を摘んでササ舟を作り、バーベキュー場横の小川で流しながら、水遊びをして楽しんだ。一時小雨がぱらついた天候も持ち直して、15時、無事に終了した。

(記 西出 健一 12期)

#### ◆ 自治労神奈川県 (下刈り)

##### 自治労水週間 ～森の下に何が見えますか～

日 8月7日水曜日 10:00～12:00、晴

場 秦野市寺山(ヤビツ峠)

参 52名

財 豊丸様、初山様 看 青木様

イ L小沢⑨、小野⑦、村井⑨、大塚⑩、西出⑫

快晴の猛暑日。開会式では小沢リーダーより森林と下草刈りに関する話、財団 豊丸様より挨拶の後、準備体操をして下刈り作業を行いました。下草刈り場は草丈が1.5～2m程に育ったカヤと笹を中心に刈りました。炎天下の中、身長程の草丈の下草刈りは予想以上に体力を消耗して、「例年より作業が大変だった」との声も出ましたが、大きな怪我もなく、1時間程で無事に作業を終えました。すっきりと整備された区画からは秦野の町並みも見渡せ、参加者一同満足そうに眺めました。12時半に閉会式を終え、自治労の皆様はレクリエーションに向かい、解散しました。

(記 大塚 晴子 11期)

#### ◆ 青春の旅 環境学習 (事前学習)

日 8月3日(土) 9:30～11:30

場 藤沢市明治市民センター

イ 柏倉 紘④

「森林を守り 育てよう」

上記の主題のもとに(神奈川の宙俯図)(神奈川の地形図と土地利用図)(森林とは何をさしておるか)(神奈川の森林の様子)(神奈川にある保安林の様子)(県民参加による森林ボランティア活動の様子)(地域でできる活動の具体例)の7項目についてパワーポイントで説明する。後半は、真竹間伐の実際について(地際からの切り取り)(枝の切り落とし)(玉切り・2等分とする)(切り出した竹と枝葉の集積の仕方)について説明する。マダケとモウソウチクの違いを知ってもらうために、そ

れぞれの実物を用意して配り、話し合いの時間を持ったが、この活動が一番積極的であった。大人も含め殆どの方がその違いを初めて理解したようであった。マダケとモウソウチクをお土産としたが好評であった。

(記 柏倉 紘 4期)

#### ◆ 青春の旅 森林ボランティア (実践活動)

日 8月10日(土)、晴れ

場 県立21世紀の森

参 小中学生 15名 大人 18名

イ L柏倉④、伊藤⑦、小沢⑨、大塚⑩、松永⑪

今年最高の猛暑日での活動開始です。10時20分からオリエンテーション開始続いてストレッチ体操を実施してヘルメット、ノコギリ、軍手を身に付けて各自2本のペットボトルを配布されて真竹間伐現場へ向かいましたが、現場への歩きだけで汗びっしょりです。

現場へ到着するとインストラクターによるデモンストレーションと注意事項の説明をして間伐開始です。みなさん真竹の間伐には慣れた様子でどんどんと竹を切り倒し明るくなった竹林を振り返り午前中の作業は終了です。作業中は水分の補給に注意しながら廻りの人の動きを見ることを心掛けるよう声かけをしました。

午後は午前中に間伐した竹を使用してクラフト作業です。竹のけん玉、竹の一輪ざしなどを作成して楽しい時間を過ごしました。最後にふりかえりをして一日が終了しました。

(記 松永 廣 11期)



かながわ森林インストラクターの会は  
緑の募金の支援団体としても取組んでいます。  
全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

略語の説明

日：日付、 場：場所、 参：参加者、

県：(神奈川県自然環境保全センター・水源の森林推進課)

財：((公財)かながわトラストみどり財団)

スタッフ 例 小田原市森林組合・XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

看：看護師、 イ：インストラクター (○数字：期)

**やどりき水源林  
ミニガイド**

**9月のトピックス**

台風18号の翌々日、沢は大きな水量と綺麗な水となっていました。



(寄沢の周歩道 A 入口付近9月18日)

**10月の水源林**

秋の気配が忍びよってきました。ちょっぴり冷たい川や気持ちの良い散策で自然を満喫しましょう。

**「森の案内人」情報**

**案内人も張り切ってお待ちしています!!**

●実施時間:毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時、1~2時間程度

●集 合:水源林入口ゲート前

●内 容:森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料

\*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ:(公財)かながわトラスト  
みどり財団 TEL:045-412-2255  
携帯:090-8580-5348  
FAX:045-412-2300

●ホームページ:<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

**●やどりき水源林までの道順**

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約 25 分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩 35 分。  
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

**イベント情報 & ご案内**

**森のふれあい館**

**『木の実・草の実ウォッチング』**

**秋の企画展 10月1日~11月24日**

神奈川県足柄下郡箱根町箱根 381-4

森のふれあい館

9時~16時半

入館料 大人650円

平日中学生650円、

小学生400円

土日祝日の小中学生は無料

問い合わせ先:森のふれあい館 0460-83-6006

関連サイト:<http://www.hakone.or.jp/morifure>



**◇ 森のなかま原稿募集 ◇**

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

松本 保

Mail: [matsutam@jcom.home.ne.jp](mailto:matsutam@jcom.home.ne.jp)

Tel: 090-7962-3168

<電子配信担当> 赤崎 さほり

〒221-0865

横浜市神奈川区片倉 2-1-50

Tel: 090-6150-6173

Mail: [s\\_akasaki-k\\_instructor@live.jp](mailto:s_akasaki-k_instructor@live.jp)

<メール・手書き原稿送り先>

**【本誌】松本 保**

〒246-0037

横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17

Fax: 045-301-9401

電話連絡先: 090-7962-3168

Mail: [matsutam@jcom.home.ne.jp](mailto:matsutam@jcom.home.ne.jp)

**【別冊】水口 俊則**

〒250-0871

小田原市下堀 123

Tel/Fax: 0465-42-7240

Mail: [minagold109@kjd.biglobe.ne.jp](mailto:minagold109@kjd.biglobe.ne.jp)

**【CCで】竹島 明**

〒238-0045

横須賀市東逸見町 3-7

Tel/Fax: 046-825-9281

Mail: [2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp](mailto:2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp)

原稿は随時受け付けています。

**編集後記**



次の中秋の名月は、  
8年後(2021年)

(9/19 鈴木松広氏撮影)

★東京五輪決まる!!

20歳の頃、パソコン、携帯も、また各家庭にTVが無い時代。7年後の1964年は14インチの白黒TVで見た東京オリンピック。今回の7年後の2020年再び健康で三文の徳、五輪を味わいたい。

(鈴木 松弘)

★ドングリにイチヨウの実、ヤブミヨウガやカヤ、ムクノキ等山野の実りに新しい発見があり秋はワクワクしますね。

(赤崎)

★自然観察にとっては楽しい季節となってきました。新しい発見があるといいですね。

(水口)

★人工衛星、ボイジャーが太陽系の枠を超えその先へと飛んでいるとか!

東京オリンピック7年後に開催等自分の夢と重ねてわくわくします。

(小沢)

★中秋の名月。以前は近くの境川の土手で採れたススキも最近はこの時期に草刈りが頻繁に行なわれありません。で、米軍の通信基地の方まで採りにいきました。

(松本)

**◇ 年間購読のお申し込み**

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒 価 200円 送料共)

編集人: 松本 保

事務局: 竹島 明

広報部: 小沢章男

鈴木 朗

大塚晴子

赤崎さほり

支援 川森健司

一時休み 真貝 勝

水口俊則

鈴木松弘

加藤愛子

谷川 克

徳岡達郎

**秋のハーブフェスティバル 10月中旬~11月上旬**

松田山ハーブガーデン



松田山全山公園化事業の一環として整備された公園です。松田山の中腹に位置し、ハーブ館・子どもの館・ふるさと鉄道・自然館などの施設があります。

駅からも歩いて25分程度、ちょっとしたハイキングにもおすすめ!

晴天時は富士山や足柄平野、相模湾まで見渡せ、眺望も抜群です!

**山や散策、ボランティア活動の  
お帰りにお越しくださいませ!!**

**山麓のオアシス** ㉓

**こまち**

小田急 新松田駅  
踏み切り際

緑の募金箱協力店